



2026.3 / VOL.35

ボードレス・アートミュージアム
NO-MA ニュースレター

What's NO-MA

NO-MAってどんな美術館？

展覧会レポート①

ボードレス —限界とあわい—

展覧会レポート②

NO-MAコレクション Part 4「色、いろ、イロ」

展覧会レポート③

アヴァンギャルドですが、なにが



ボーダレス・アートミュージアム
NO-MA20周年企画 vol.2
ボーダレス ―境界とあわい―
2024年10月19日(土)～12月15日(日)
主催：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
社会福祉法人グロー～生きることが光になる～
後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、
近江八幡市、近江八幡市教育委員会
協力：特定非営利活動法人コーナス アトリエコーナス、
社会福祉法人一羊会あとリエすずかけ、
社会福祉法人さわらび会 障害福祉サービス事業所
明日香、社会福祉法人しがらき会信楽青年寮、
社会福祉法人風舎、福迫弥麻、近江八幡観光物産協会、
しみんふくし滋賀、マエダクリーニング仲屋店



NO-MAコレクションPart 4
「色、いろ、イロ」
第Ⅰ期 2025年5月24日(土)～7月21日(月・祝)
第Ⅱ期 2025年7月26日(土)～9月28日(日)
主催：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
社会福祉法人グロー～生きることが光になる～
後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、
近江八幡市、近江八幡市教育委員会
協力：近江八幡観光物産協会、しみんふくし滋賀、
マエダクリーニング仲屋店

「ぐおーん カーン」
NO-MAの表玄関をくぐり前庭に足を踏み入れると、鐘を鳴らすような、不思議な「音」が聞こえてくる。庭に設置されたアクリル板には谷川俊太郎の詩「詩人の墓」が記され、ここから展示が始まっていることがわかる。

NO-MA20周年企画として開催した本展は、フォークシンガールの小室等を企画・構成に迎え、谷川の詩(ことば)と小室の音(音楽)、そしてアール・ブリュット作者の作品といった、3つの「表現」がNO-MAの空間で交差するという、これまでにない実験的な手法を用いた展覧会となった。音響デザイナーは、谷川の息子であり、ピアニストである谷川賢作が担当した。

穏やかな朝日が差し込むNO-MA1階には、50歳を超えてから絵を描き始めた塔本シスコの作品と、俯瞰的に心の中の街を描く辻勇二の作品を展示した。天井から吊るされたタペストリーには谷川の「生きる」が記され、俳優・佐野史郎による朗読が空間を包み込む。「生きる」とはなにか、「死」とはな

にか。塔本の描いた色鮮やかな日常や花々が、谷川の詩に応えるように、生きる喜びを謳っているようだった。

モチーフを大胆な構図と色使い

で描いた舛次崇の作品には「あげ

ます」、カラフルな丸や四角が積み重ねられた村田清司の作品には「ほへえむちから」、後藤拓也のホチキスで作られた《いえ》には「死んだ男の残したものは」の詩が空間を共有した。「かっぱ」の朗読が流れる階段には、古賀翔一の作品を展示した。作品と詩が直接リンクしているわけではないが、谷川の詩や佐野の朗読が交差する鑑賞空間は、作品の持つ魅力をより膨らませていくように感じられた。

3つの表現の競演を締めくくるのは西岡弘治が描いた、踊るような楽譜の作品だ。谷川の「悼む詩 ジョン・レノンへの悲歌」が交わりあう。

新たな手法を用いて、改めて「ボーダレスとは何か」を問いかけた本展には、「限界とあわい(間)」というテーマがあった。それぞれの表現が交差し、共和し、相克して浮き出るものとは何か。小室は「分からないことを分かん」という言葉に「あわい」への思いを込め、無数の分からないを展覧会にちりばめた。

* * *

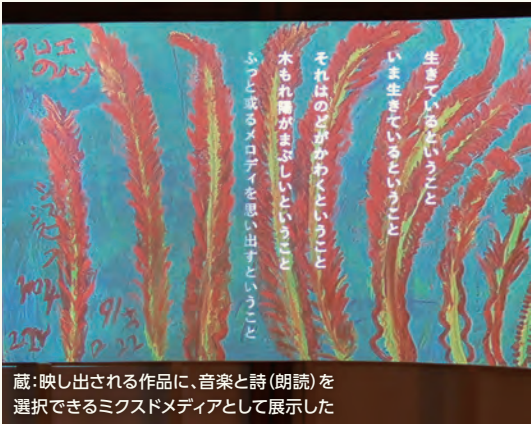
本展会期中にご逝去されました谷川俊太郎氏に、あらためて深い哀悼の意を捧げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。



西岡弘治 展示風景



古賀翔一 展示風景



蔵：映し出される作品に、音楽と詩(朗読)を選択できるミクストメディアとして展示した

2024年に20周年を迎えたNO-MAでは、障害のあるなしに関わらず、魅力ある多くの作家の作品を収蔵してきた。その数35作家、3万点以上。その中から、新たに収蔵した橋脇健一、平田猛を含む、6作家の作品をコレクション展として紹介した。

「色」をテーマとした本展は、色彩豊かな表現が魅力的な作品を第Ⅰ期、単色で描かれた作品を第Ⅱ期とし、2つの視点から「色」のもつ力を感じることができる構成とした。岩崎司、木本博俊、ドウィ・プトロ、三橋精樹は第Ⅰ期、第Ⅱ期ともに展示、平田は第Ⅰ期、橋脇は第Ⅱ期のみ展示した。

岩崎の作品は、会場に踏み入れた来場者をいきなり圧倒的な力で突き刺す。着色されているかどうかは、もはや関係なく、岩崎が筆に込めた力がそのまま見るものに飛び込んでくる。短冊や色紙などに記された文字の作品にも、突き刺すような鋭さがある。本展では、鋭さの陰にあるユーモアや、娘と触れあう優しい父の一面を詠んだ短歌など、岩崎の違った魅力を感じることができ作品も展示した。

インドネシアの作家ドウィ・プトロは影絵の人形劇に出てくる「ワヤン」という人形を描き、原色に近い絵具で大胆に着色した。小

さいころにワヤンを見ることができなくて描いた作品は、ドウィ・プトロの中にあるワヤンへの憧憬を鮮明によりがえらせる。

木本の作品は、繊細だ。小さな丸や三角、まっすぐな線やまがった線がつながって、形が作られている。木や人のかたちに見えることもあるし、生き物がたくさん集まっているように見えることもある。色鉛筆で淡く色が付けられると、かわいらしく、幸福感が宿るが、単色での表現にも命が増殖していくような、みずみずしさが感じられる。

NO-MA2階に展示した三橋の作品は、第Ⅰ期ではクレヨンや色鉛筆で着色された作品を展示した。白い画用紙にスイカやタケノコが描かれ、「コレワナラノヤマトノスイカ」などカタカナが添えられている。第Ⅱ期に展示した、鉛筆で真っ黒に描かれた風景は、見る人を驚かせ、三橋作品の本領発揮といったところだった。

平田は、2021年に亡くなるまでスケッチブックに絵を描き続けた。多くは食べ物や病室から見た景色を描いていたが、自身が手術を受けたあと、人間の体を描くようになった。

橋脇の作品は膨大な数が収蔵されている。窓から見た景色、壁の



第Ⅰ期に展示した平田猛の作品

板、時計など、仕事をする父の傍らで鉛筆を持ち、何千枚と描き続けた。橋脇の作品は同じテーマで描かれた作品をアクリルケースの中に積み上げて展示した。視覚に障害がある人にも作品数の膨大さを感じてもらえるよう、大きなかこの中に展示された作品とほぼ同じ数、同じ質感の紙を入れて、触れたり、持ち上げたりしてもらった。

NO-MA2階では、地域交流事業の一環として無料ワークショップ「ものづくランド」を同時開催した。作品を鑑賞した後、触発されたように、大人から子どもまで、夢中になってもものづくりを楽しむ姿が見られ、新たに生まれた多くの作品がNO-MAを彩った。



NO-MA展示風景(上:1階/下:2階)

「アヴァンギャルドですが、なにか」は、「前衛的な態度をとること」に問題があるのか」という挑発的な問いであるが、この問いは本展に参加しているアーティストが発しているものではなく、もちろん社会の多数派が「標準」や「正常」と呼ぶ枠組みに対し、社会や他人が決めた既存のラベルに「従う必要がどこにあるのか」と問い返す試みを、圧倒的な自由さを持つアーティストたちの表現を借りてキュレーターが主張するものだ。

（本展図録掲載「境界のない声を聴くーアヴァンギャルドですが、なにか」黒澤浩美より引用）

EXPO2025大阪・関西万博にて展示され、3日間で6,500人を超える来場者を集めた「アヴァンギャルドですが、なにか」が、NO-MAに巡回。約1,500人に鑑賞いただいた。本展には、全国から集まった障害のある作家25名が出展したが、キュレーターを務めた黒澤浩美は展覧会に込めた思いを冒頭のように語り「障害も制約ではなく、独自の視点として創造性や社会的包摂を促す力と捉え直す」とした。その言葉を証明するように、力強く個性的な作品がNO-MAを埋め尽くした。

展覧会は「街」をイメージしているような作品から始まる。大好きな車をぎっしり描いた戸舎の作品、記憶と架空の街が織りなす辻の《心でのぞいた僕の街》など。頭の中のイメージを下書きなしで表出していることに驚きを隠せない。

渡邊の《折り葉》と切り絵の作品の前では、誰もが足をとめる。渡邊がはさみを使って動物を切り出す技術がどれほどすごいのか。伝えたいことはたくさんあるが、作品が持つ力だけで、人を十分に引き付ける。

唯一、映像を使って制作の様子を紹介したのは、蔵で展示していた井口の作品だ。井口は通所する施設の近隣コンビニに駆け込み、コピー機に顔を押しつけスタートボタンを押す。自身が好きなものと映り込むことで、井口の作品が生まれる。なぜ井口はこの行為を繰り返すのか、映



企画展
「アヴァンギャルドですが、なにか」
2025年10月18日(土)
～2026年1月12日(月・祝)
主催:ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
社会福祉法人グロー～生きることが光になる～
連携団体:一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会
後援:滋賀県、滋賀県教育委員会、
近江八幡市、近江八幡市教育委員会
協力:近江八幡観光物産協会、しみんふくし滋賀、
マエダクリーニング仲屋店
本展は、「2025大阪・関西万博文化芸術ユニバーサル・
ツーリズムプロジェクト」と連携して実施しました。

【出展者】井口直人／石野敬祐／伊藤裕／
犬塚弘／岩瀬俊一／大川誠／勝部翔太／
古久保憲満／小林一緒／坂元郁代／高丸
誠／辻勇二／鶴岡一義／戸倉清志／西岡
弘治／野間口桂介／野本電士／半澤真人
／藤岡祐機／戸次公明／戸来貴規／前田
泰宏／松本倫子／山崎健一／渡邊義紘

NO-MAアーカイブサイトにて
展示の様子をご覧いただけます。
<https://no-machive.com/exhibition/4095/>



「ボーダレス・アートミュージアムNO-MAってどんな美術館？」
「地域の皆さんにとって、どんな場所だろう？」
これからNO-MAはどんな美術館を目指していくのか、
運営するスタッフで見つめ直しました。

「NO-MA」の歴史

- 2004年6月
「ボーダレス・アートギャラリーNO-MA」として開館
- 2007年11月 博物館相当施設の指定を受ける
「ボーダレス・アートミュージアムNO-MA」に改称
- 2026年1月
開催した展覧会が100回を数える

「NO-MA」が期待されているもの

- | | |
|-------------------------|-------|
| ① 現代アートと障害のある人のアートの展示 | 54.7% |
| ② アール・ブリュット作品の展覧会の開催 | 29.4% |
| ③ 合理的配慮を提供した誰もが訪れやすい美術館 | 20.0% |
| ④ 近江八幡の地域との交流・ボランティア活動 | 6.1% |
| ⑤ ワークショップ・イベントなどの開催 | 19.3% |
| ⑥ その他 | 1.7% |

2025年開催展覧会来場者のアンケートより

回答総数1,107(複数回答あり)

スタッフが考える「NO-MA」の特徴

1 「ボーダレス」というコンセプト

- 障害のある人の造形活動と現代アートの作品などを
分け隔てなく展示するというコンセプト
- アートディレクターはたよしこの「表現衝動」への強い思い
- 人が持つ表現の力について考える場

2 誰もが訪れやすい美術館

- 社会福祉法人が母体となって運営
- 障害のある人や子どもなど、どんな人もウェルカム
- 鑑賞サポートに取り組む(触図、やさしい日本語、点字など)
- 合理的配慮の提供

3 近江八幡の歴史を感じる、古民家を改修した美術館

- 玄関で靴を脱ぎスリッパで鑑賞。通常の美術館とは違う
- 畳間、床の間、ふすまなどを生かし、日本家屋の中にアート作品がある魅力
- 野間清六郎という昭和初期に建てられた伝統的な建造物という価値

4 地域との交流

- アートを通じて、地域とのつながりが生まれる
- 地域に「アート×福祉」「ボーダレスアート」という取り組みを伝える
- 会場ボランティアへ参加、懇談会などを開催して、コミュニティを築く
- 地域住民として地蔵盆、初寄りなどに参加。積極的に交流の機会を持つ
- アウトリーチ、インリーチなど積極的に外部の教育機関などとプログラムを展開

5 作品調査事業

- 2008年から全国・海外へ調査員を派遣し、アール・ブリュット作品の調査に取り組む
- 障害のある作家や作品の情報のデータベース化、アーカイブ化に取り組む

What's NO-MA?

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
borderless art Museum NO-MA

読者の皆さまへ 今後の『野間の間』の発行について

ボーダレス・アートミュージアムNO-MAでは、無料配布するニューズレターを発行してきました。2011年4月に発行した10号まではモノクロで、2011年9月からは全面カラーにリニューアルして『野間の間』として35号まで発行。NO-MAでの配布はもちろん、告知物に同封して郵送するなどして、多くの方に届けてきました。手に取って読める質感を大切にしつつ、ペーパーレス化による時代の流れに対応するべく、WEBやSNSを活用する情報発信を並行して行ってきましたが、印刷、配布による『野間の間』の発行は、今号までとして、今後はオンライン上での発信、配布とさせていただきます。今後とも、NO-MAと皆さんをつなぐツールとして『野間の間』をよろしくお願いいたします。

過去の『野間の間』は以下のサイトから
ダウンロードしてご覧いただくことができます。
<https://x.gd/IU5oJ8>



【編集後記】 赤澤誉四郎(広報担当)

2004年に創刊したニューズレターが、カラー化にともない、A2サイズ四つ折りの『野間の間』になったのは2011年9月(vol.11)のことでした。表面に日本の伝統的な色を特色として用い(萌黄色や若草色、桃花色など)、同じ系統の色でも、まったく同じ色が使われたことはありません。中面のコラムも、縦書きだったり横書きだったり、見やすさを追求しながらも、多様なデザインが詰め込まれていて、NO-MAのコンセプトに寄り添いながら、美術館の発行物らしい尖ったデザインを目指したデザイナーのこだわりが感じられます。

表面に地紋のように配置されている「noma-noma」の文字。模様だったら、上に乗せた「野間の間」の文字に隠れる部分があるはずですが、驚くのは、実は1文字も欠けていません。それだけでなく、左からどの行を読んでも「noma-noma」の字並びが崩れることがなく、なんと、上下左右、どこを見ても切れている文字がないはず。普通、印刷する際には多少のずれが発生するもので、「裁ち落とし」の場合、3ミリほど余分にデザインを足します。本来なら、多少ずれても大丈夫という意味の3ミリですが、あえてぎりぎりまで文字を並べ、それを寸分たがわずにそろえるというスゴ技をリクエストしたデザイナーもすごいし、応えた印刷所もさすがでした。

途切れることのない文字は、どこまでいっても、『野間の間』がアートを媒介としてNO-MAと読者をつなげていくという意味が感じられます。『野間の間』を手にした方から「すごくいいデザインですね」と何度声をかけていただいたかわかりません。今後も変わらない情熱で『野間の間』を制作してまいります。次回の発行も、ぜひ楽しみにお待ちください。

NO-MAオンラインストア開設

過去の展覧会図録やポストカード、グッズなどがオンラインでもお求めいただけるようになりました!! クレジット決済にも対応! ぜひお買い求めください。

NO-MAオンラインストアで販売中の図録(すべて税込/★は在庫わずか)
開設記念展《私あるいは私[静かなる燃焼系]》2004.7/1,000円★
障害者アートディレクター公募事業《大地に生える氣》2006.2/300円
《うごめくこころ》2006.4/300円
《マイルール ～わたし時間の集積～》2006.7/300円
《快走老人録 ～老ヒテマスマス過激ニナル～》2006.9/500円
《ウチナル音 ～身体音からの造形～》2007.1/300円★
《ラブミー天国 いとしのかたち》2007.4/300円
《「近江八幡お茶の間ランド」にちょっと寄ってくればらへん? ～ふつうの町のキュートな日常～》2008.1/300円
《岩崎司個展 ～大志と正義 そして、それゆえの苦悩～》2008.6/300円
《飛行する記憶 ～記憶は創造を呼び起こす～》2008.10/800円
《アール・ブリュット作品との対話 ～心の病と表現衝動～(アロイズ/目覚めぬ夢)》2009.2/500円

《顔》2009.6/300円
《この世界とのつながりかた》2009.10/800円★
《ミクロとマクロ ～ミクロはマクロに向かい マクロはミクロに向かう～》2010.9/500円
《ココロの景色 COCORO-KESHIKI》2011.2/500円★
《フィギュアたちの人生》2011.9/500円
《第8回滋賀県施設合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2011.12/300円
《日韓合同企画展 Art Brut in Japan and Korea 日/韓 行き交うところ》2012.1/500円
《ひそむ形 とけ出る色 滋賀のアール・ブリュットたち》2012.4/1,400円
《第9回滋賀県施設合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2012.11/300円
《踊る細胞 ～田島征三とアール・ブリュットたち～》2013.2/1,500円
《対話の庭 Dialogue of Garden—まなざしがこだまする》2013.4/1,500円
《カソケキ+チカラ》2013.8/1,500円
《第10回滋賀県施設合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2013.12/300円
《Timeless 感覚は時を越えて》2014.5/1,200円
《快走老人録II -老ヒテマスマス過激ニナル-》2014.8/1,000円
《第11回滋賀県施設合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2014.11/500円
《アール・ブリュット☆アート☆日本2》2015.2/1,000円
《鳥の目から世界を見る》2015.4/1,200円★
《これ、すなわち生きものなり》2015.9/1,200円
《第12回滋賀県施設合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2015.11/500円★
《アール・ブリュット☆アート☆日本3》2016.2/1,000円
《楽園の夢》2016.9/1,500円
《第13回滋賀県施設合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2016.12/800円
キュレーター公募企画展《大いなる日常》2017.2/1,000円
《HELLO 開眼》2017.4/1,500円
《惑星ノマ—PLANET NO-MA》2017.9/1,500円
《第14回滋賀県施設合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2017.12/500円
キュレーター公募企画展《アール・ブリュット 動く壁画》2018.2/800円
《GIRLS 毎日を絵にした少女たち》2018.4/1,500円
《以“身”伝心 からだから、はじめてみる》2018.9/1,200円
《第15回滋賀県施設・学校合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2018.12/500円
《ときどき、日本とインドネシア》2019.3/1,300円
《忘れようとしても思い出せない》2019.6/1,300円★
《第16回滋賀県施設・学校合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2019.11/500円
《アール・ブリュット—交差する物語—》2020.2/1,100円
《ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭『ちかくのまち』》2020.9/1,800円
《第17回滋賀県施設・学校合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2020.11/600円
《文字模似言葉(もじもじことのは)》2021.2/2,500円
《ボーダレスの証明 はたよしこという衝動》2021.6/2,000円
《79億の他人—この星に住む、すべての『わたし』へ》2021.9/2,000円★
《第18回滋賀県施設・学校合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2021.11/600円
《反復と平和—日々、わたしを繰り返す》2022.4/2,000円
《絵になる風景》2022.8/1,200円
《第19回滋賀県施設・学校合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2022.12/600円
《林田嶺一のポップ・ワールド》2023.2/1,500円
《並行世界の歩き方 土土橋勇樹と戸谷誠》2023.7/1,500円
《第20回滋賀県施設・学校合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2023.12/600円
《Borderline》2024.3/1,200円
NO-MA 20周年企画《人生はボーダレス! 作家たちの今と回想録》2024.7/1,200円
《第21回滋賀県施設・学校合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2024.12/600円
《アヴァンギャルドですが、なにか》2025.10/3,500円
《第22回滋賀県施設・学校合同企画展 ing...～障害のある人の進行情形～》2026.1/600円

NO-MAオンラインストアで販売中の書籍(すべて税込)
《日本のアール・ブリュット『すずき万里絵』》2,000円
《アール・ブリュット アート 日本》2,200円
《ボーダレス・アートミュージアムNO-MA 10年の軌跡—境界から立ち上がる福祉とアート—》2,750円

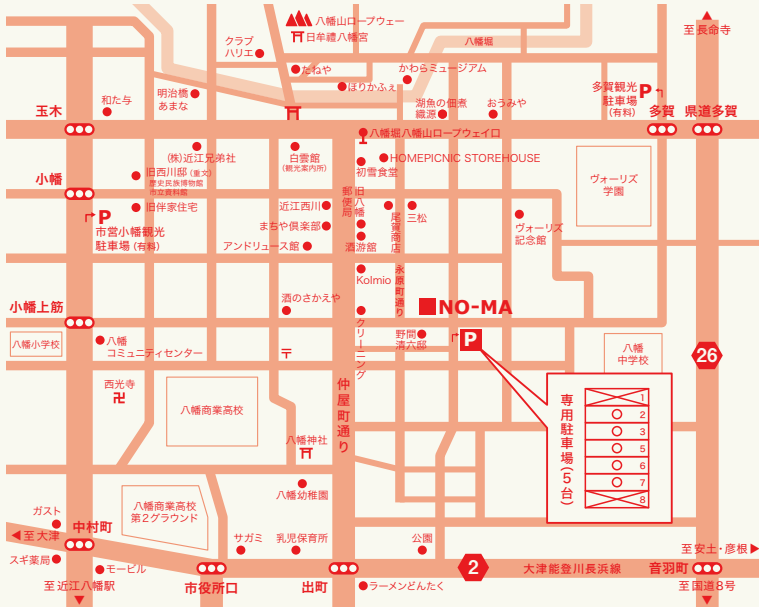


NO-MAオンラインストア
https://no-ma.jp/about/about_goods/



ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

滋賀県近江八幡市永原町上16
TEL/FAX 0748-36-5018
休館日：月曜日
(月曜日が祝日の場合は翌平日休館)
E-mail no-ma@lake.ocn.ne.jp
<https://no-ma.jp>



Access アクセス



JR近江八幡駅から近江鉄道バス(長命寺行き)八幡堀八幡山ロープウェイバス停下車徒歩8分。
名神高速道路・竜王ICより「近江八幡・国道8号」方面へ。
国道8号「西横関」右折、「東川町」左折。県道2号「小船木町」右折、「出町」左折。(計30分)
JR近江八幡駅から徒歩30分、自転車10分。



NO-MA公式サイト
<https://no-ma.jp/>



公式Facebook
 museumnoma



公式Instagram
 @museum_noma



NO-MAアーカイブ
<https://no-maarchive.com/>



公式X(旧Twitter)
 museum_noma



NO-MA YouTube
チャンネル

NO-MAでは、ホームページでの情報発信に加えて、SNSを活用した情報発信も行っています。